

中島1号遺跡発掘調査報告書

- 東広島高屋中島無線基地局新設工事に係る発掘調査 -

中島1号遺跡発掘調査報告書

－東広島高屋中島無線基地局新設工事に係る発掘調査－

2015

東広島市教育委員会



検出状況全景（南東から）

は　し　が　き

広島県のほぼ中央に位置する東広島市は、「未来にはばたく国際学術研究都市とともに育み、人が輝くまちー」を将来の都市像とし、環境と調和した生活しやすいまち、安全で安心な暮らしを地域で支えあうまちなどの目標を掲げ、住みよい都市空間の形成を目指しているところです。これまでに整備された道路、駅等の既存施設はもとより、これからあらたな整備により、これまで以上に利便性の高いコンパクトな市街地の形成や本市の特徴ある自然環境を活かした新しいライフスタイルに対応できる魅力のある住環境の形成など、からの時代に対応したまちづくりを進めているところです。

東広島市の東部に位置する高屋町は、東広島ニュータウン、あすかパーク等の住宅団地を中心とした開発整備事業や、県立広島中高等学校や近畿大学東広島キャンパス誘致による学園都市整備も一段落し、現在は周辺地域の開発や通信網などのインフラ整備が盛んに行われているところです。特に、情報化社会をむかえた現代において携帯電話は生活必需品となっており、これにあわせた通信の高速化や大容量化といった需要も飛躍的に増大してきているところです。

このたび、そうした携帯電話を中心とする無線通信網整備の一環として高屋町中島での携帯電話無線基地局新設工事が行われ、それに伴い中島1号遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、30m未満のごく狭い調査範囲から弥生時代後期の土器棺および石棺が群集する墳墓群が確認され、当該地域の歴史を知る上で貴重な資料を得ることができました。

本報告書が、郷土の歴史研究の資料として広く活用されますとともに文化財に対する理解と関心をより深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査の実施・報告書の刊行にあたり、関係各機関並びに地元関係者各位には、多大なご協力とご理解をいただきました。ここに厚くお礼申し上げますとともに、今後ともご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

東広島市教育委員会
教育長 下川聖二

例　　言

1. 本書は、平成25（2013）年度に発掘調査を実施した中島1号遺跡（広島県東広島市高屋町中島所在）の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び整理作業・報告書作成は、KDDI 株式会社広島エンジニアリングセンターからの委託を受けて東広島市教育委員会が実施した。
3. 発掘調査及び基礎整理（平成25年度）は生涯学習部文化課主事津田真琴が担当し、文化課職員が協力して行った。整理・報告書作成作業（平成26年度）は津田と埋蔵文化財調査員吉田由弥、杉原弥生が担当し、文化課職員が協力して行った。
4. 遺構の写真撮影・実測・製図は津田が行い、遺物の実測・製図は吉田、整理作業員の石井明日香が行った。また、遺物の写真撮影および本書の執筆・編集は、津田が行った。
5. 第1図は、国土交通省国土地理院発行の1/25,000 地形図（白市）を使用した。
6. 第2図は、東広島市発行の1/2,500 東広島市地形図（N-10, O-10）を使用した。
7. 遺物実測図に付した遺物番号と写真図版に付した遺物番号は同一である。
8. 本書で使用した方位は、第1図が旧平面直角座標第Ⅲ系座標北で、ほかが世界測地系座標北（平面直角座標第Ⅲ系）である。
9. 調査で得られた遺物、図面、写真等の資料は、すべて東広島市教育委員会で保管している。
10. 本書に使用した遺構の表示記号は次のとおりである。
SD：溝状遺構　SX：性格不明遺構
11. 発掘調査作業ならびに整理作業に携わっていただいた方々は次のとおりである。記して謝意にかえたい。

（発掘調査）玖村守、鈴木豊美、古川良三（敬称略）

（整理作業）上村澄江、乙重潤子、越本洋子、宮川和美、石井明日香（敬称略）

中島1号遺跡発掘調査報告書

目 次

I はじめに.....	1
II 位置と環境.....	2
III 調査の概要.....	6
IV 遺構と遺物.....	8
V まとめ.....	19

奥付・抄録

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)	3
第2図 遺跡位置図 (1:2,500)	6
第3図 中島1号遺跡遺構配置図 (1:50)	7
第4図 土器棺1実測図 (1:20)	9
第5図 土器棺2実測図 (1:20)	10
第6図 土器蓋土坑墓 (1:20)	11
第7図 石棺1実測図 (1:40)	13
第8図 石棺2実測図 (1:40)	13
第9図 石棺3実測図 (1:40)	14
第10図 SD1土層断面図 (1:40)	14
第11図 出土遺物実測図1 (1:4)	16
第12図 出土遺物実測図2 (1:4)	17
第13図 出土遺物実測図3 (1:4)	18
第14図 壺形土器の他遺跡類例比較図 (1:10)	20

表 目 次

第1表 中島1号遺跡遺物観察表	18
-----------------------	----

図版目次

卷頭図版 検出状況全景（南東から）

図版1 a 遺跡調査前風景（南から）

b 作業風景（南東から）

c 検出状況全景（南東から）

d 完掘全景（南東から）

e SD1 土層断面（北東から）

f SD1 完掘（北西から）

図版2 a 土器棺1 土層断面（北西から）

b 土器棺1 検出状況（南東から）

c 土器棺1 小口石検出状況（南東から）

d 土器棺1 完掘（南東から）

e 土器棺2 土層断面（南東から）

f 土器棺2 検出状況（北西から）

g 土器棺2 蓋取外し後（北西から）

h 土器棺2 完掘（北西から）

図版3 a 石棺1 蓋石検出状況（北西から）

b 石棺1 土層断面（南東から）

c 石棺1 側石検出状況（北西から）

d 石棺1 完掘（北西から）

e 石棺2 蓋石検出状況（北西から）

f 石棺2 土層断面（南東から）

g 石棺2 側石検出状況（南東から）

h 石棺2 完掘（南東から）

図版4 a 土器蓋土坑墓・石棺3 土層断面（南西から）

b 土器蓋土坑墓検出状況・石棺3 蓋石検出状況（南西から）

c 土器蓋土坑墓検出状況・石棺3 側石検出状況（南西から）

d 土器蓋土坑墓検出状況（南東から）

e 土器蓋土坑墓 土層断面（南東から）

f 土器蓋土坑墓 完掘（南東から）

g 石棺3 土層断面（南東から）

h 石棺3 完掘（南東から）

図版5 中島1号遺跡出土遺物1～4

I　はじめに

平成25（2013）年9月19日付で、株式会社オオバ広島支店支店長陣内修一（以下、「オオバ」という。）から東広島市高屋町中島（約23m²）で宅地造成工事を行うため、計画地の文化財等の有無及び取扱いについての協議が東広島市教育委員会（以下、「市教委」という。）にあった。市教委が当該計画地の分布調査を実施した結果、弥生時代の包含地である奥之谷遺跡などが、計画地周辺に分布していることから、全域について試掘調査が必要な旨を同年9月27日付で回答した。その後、10月10日付でオオバから試掘調査の依頼があり、10月22日に試掘調査を実施した。その結果、弥生時代の石棺を確認した。このため10月28日付で、計画地の全域につき、「中島1号遺跡」が存在する旨をオオバに回答した。これを受け、市教委とオオバは計画位置を変更するなどして遺跡を保存できないか協議し、当初の計画地の5mほど南側でも試掘調査を実施した。その結果、11月5日の試掘調査で石棺1基を発見、11月13日の試掘調査では土器棺1基、石棺1基が発見された。このため遺構が広範囲に拡がると想定され、多少の計画地変更では遺跡範囲を避けられないと判断した。以上のことから、開発計画をこのまま進めるのであれば発掘調査を実施し、記録保存が必要となる旨をオオバに回答した。

その後、11月26日付でオオバへ工事を発注した事業主体であるKDDI株式会社広島エンジニアリングセンターセンター長淺井尚之（以下、「KDDI」という。）から埋蔵文化財の発掘の届けが市教委に提出された。市教委は11月28日付でKDDIに埋蔵文化財の発掘について通知した。11月28日付でKDDIから市教委に対して、「東広島高屋中島無線基地局新設工事に係る埋蔵文化財の発掘調査」の依頼が提出された。市教委は11月29日付でKDDIに発掘調査を実施する旨を回答し、12月3日付で、両者の間で発掘調査の委託契約が締結された。これを受けて発掘調査（現地調査）は、12月10日から12月27日まで実施した。なお、整理作業・報告書作成は平成26（2014）年度に実施することとした。

本報告書は、以上のような経過を経て実施した発掘調査の成果をまとめたものである。なお、今回の調査では、KDDI株式会社代広島エンジニアリングセンター、株式会社オオバ広島支店をはじめとして、東広島市立高屋西小学校の教職員、生徒ならびに近隣住民の方々、また現地で遺跡の発掘調査の見学していただいた方々には多大な御協力をいただいた。記して感謝の意を表したい。

Ⅱ 位置と環境

中島1号遺跡は、西条盆地の東端に位置する東広島市高屋町中島に所在する。この周辺は、砂礫が堆積してきた白市盆地が、高屋町内を北から南に流れる杵原川と西から東に流れる入野川により開析され、樹枝状にのびる低丘陵が続いている。遺跡は標高236mほどの低丘陵上に位置し、入野川沿いの谷水田との比高差は約25mである。遺跡の現状は雑木林で、北側約200mには東広島市立高屋西小学校が所在し、その通学路に隣接している。次に本遺跡周辺の遺跡について概観する。

[旧石器・縄文時代]

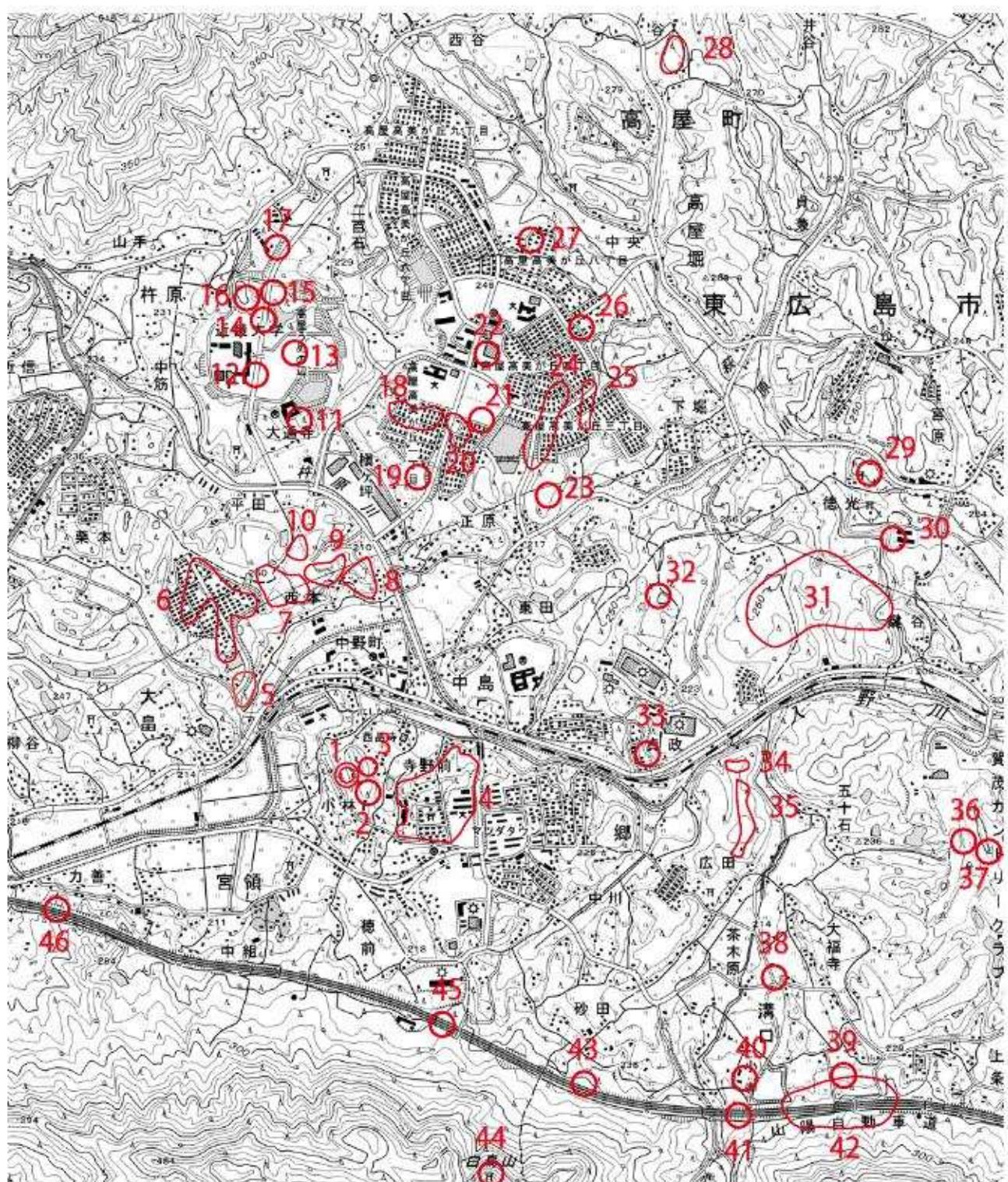
旧石器時代の遺物を伴った遺跡は今のところみつかっていないが、溝口2号遺跡⁽¹⁾でナイフ形石器1点と森信第10号古墳⁽²⁾でスクレイパーが出土している。縄文時代も遺構を伴った遺跡はみつかっていないが、横ヶ坪3号遺跡A地区⁽³⁾から後期の土器片が出土している。また、原の谷遺跡⁽⁴⁾からはチャート製の有茎尖頭器が採集されている。

[弥生時代]

弥生時代前期の遺跡は少ないが、原の谷遺跡で前期の土器が採集されている。中期以降になると遺跡数が増加する。中期の集落遺跡では、溝口2号遺跡、宮領1号遺跡⁽⁵⁾、淨福寺1号遺跡⁽⁶⁾から竪穴住居跡や貯蔵穴が検出されている。これらはいずれも小規模な集落跡である。中期の墳墓群では、横ヶ坪2号遺跡⁽⁷⁾や高屋東3号遺跡⁽⁸⁾がある。また西本遺跡群（1～6号遺跡）⁽⁹⁾では、中期から後期にかけての大規模な集落跡や墳墓群が検出されている。本遺跡と北側に延びる丘陵上にある淨福寺1号遺跡、淨福寺2号遺跡⁽¹⁰⁾からは後期中葉を中心とした集落跡と墳墓群があり、高屋東3号遺跡からも後期後半の住居跡や土坑墓などが検出されている。その他、天神遺跡⁽¹¹⁾、行摠1号遺跡⁽¹²⁾、原の谷遺跡でも後期の住居や貯蔵穴がある。また、後期の墳墓としては、行摠1号遺跡、横ヶ坪2号遺跡、横ヶ坪3号遺跡、高屋東2号遺跡などで確認されている。

[古墳時代]

古墳時代になると、数多くの遺跡が確認されているが、そのほとんどが古墳である。前期の古墳としては、2基の竪穴式石室を内部主体とする才が迫第1号古墳⁽¹³⁾、4世紀後半に位置付けられる白鳥古墳⁽¹⁴⁾からは、三角縁神獣鏡や素環頭太刀が出土している。また5世紀初めの仙人塚第1号古墳⁽¹⁵⁾は、箱式石棺を内部主体に持ち、珠文鏡や碧玉製石釧などが出土している。高屋東2号遺跡では、5世紀代の円墳が同一丘陵の尾根筋に沿って13基検出されており、須恵器やガラス製の管玉、鉄刀などの副葬品が出土している。5世紀以降になると、直径10m前後の大型の円墳が多くみられるようになる。この中には木原向山、鍵向山古墳群⁽¹⁶⁾、仙人塚第2・3号古墳などがある。この他には19基の古墳で構成される森信古墳群があり、このうち森信第1号古墳は6世紀前半に築造された全長約10mの前方後円墳であり、森信第10号古墳⁽¹⁷⁾は竪穴石室を主体部とする6世紀前半に築造された直径約11mの円墳である。古墳時代後半の6世紀半ばから7世紀後半には、横穴式石室を主体



- | | | | | |
|----------------|-------------|-------------|-------------|----------------|
| 1. 中島1号遺跡 | 2. 奥之谷遺跡 | 3. 奥之谷古墳 | 4. 原の谷遺跡 | 5. 古慈喜城跡 |
| 6. 西本6号遺跡 | 7. 西本3・4号遺跡 | 8. 西本5号遺跡 | 9. 西本2号遺跡 | 10. 西本1号遺跡 |
| 11. 西8地点遺跡 | 12. 西7地点遺跡 | 13. 西5地点遺跡 | 14. 西4地点遺跡 | 15. 高屋うめの辺2号遺跡 |
| 16. 高屋うめの辺1号遺跡 | 17. 西1地点遺跡 | 18. 横ヶ坪2号遺跡 | 19. 横ヶ坪3号遺跡 | 20. 胡麻4号遺跡 |
| 21. 胡麻4号遺跡 | 22. 四ヶ谷遺跡 | 23. 行徳1号遺跡 | 24. 净福寺2号遺跡 | 25. 净福寺1号遺跡 |
| 26. 天神遺跡 | 27. 中郷窯跡 | 28. 御薙宇城跡 | 29. 森信第1号古墳 | 30. 森信第10号古墳 |
| 31. 福岡山古墳群 | 32. 仙人塚古墳 | 33. 郷1号遺跡 | 34. 高屋東2号遺跡 | 35. 高屋東3号遺跡 |
| 36. 鍵向山第1号古墳 | 37. 鍵向山古墳群 | 38. 溝口2号遺跡 | 39. 溝口3号遺跡 | 40. 溝口4号遺跡 |
| 41. 溝口1号遺跡 | 42. 原田岡山古墳群 | 43. 別所古墓群 | 44. 白鳥古墳 | 45. 宮領1号遺跡 |
| 46. 才が迫古墳群 | | | | |

第1図 周辺遺跡分布図 (1:25,000)

部とする円墳が多く築造されている。6世紀後半には原田岡山古墳群⁽¹⁸⁾、大谷古墳群などが造営され、終末期になると墳丘をもたない胡麻第4号古墳⁽¹⁹⁾などがある。また、集落跡では、小規模ではあるが中期の原の谷遺跡、後期の高屋東1号遺跡⁽²⁰⁾などが確認されている。その他、胡麻2号遺跡⁽²¹⁾からは多くのミニチュア土器や石製模造品が出土しており、祭祀遺跡と考えられている。

[古代]

奈良・平安時代になると、律令体制による政治が行われ、当地域は安芸国賀茂郡に属しており、「和名類聚抄」に記載された賀茂郡9郷のうちの高屋郷にあたる。また、古代官道（山陽道）が、高屋一西条一八本松を通っていたと推定されており、この中の駅家の「鹿附」が高屋だとする説がある。この時期の遺跡としては西本6遺跡があり、飛鳥時代の棟持柱を持つ大規模な掘立柱建物跡が検出されている。ここから出土した墨書き器の「解□」の文字などから天武朝の大祓に伴う神殿跡と推定されている。高屋うめの辺1号遺跡⁽²²⁾からは役人の階級を表す帶飾りの巡方や祭祀に使用したとみられる陶馬などが出土しているほか、小鍛冶炉などの工房が確認されている。それから浄福寺2号遺跡、西1地点遺跡⁽²³⁾、西4地点遺跡⁽²⁴⁾、西5地点遺跡⁽²⁵⁾からは住居跡が確認されている。その後、当地域は国衙領を経て平安時代末期に大炊寮の便補保として荘園「高屋保」が形成された。

[中世]

高屋保の地頭職であった平賀氏に関する多くの遺跡が確認されている。頭崎城跡⁽²⁶⁾、御菌宇城跡⁽²⁷⁾、白山城跡⁽²⁸⁾、古慈喜城跡⁽²⁹⁾などの山城や、平賀氏墓所、御土居遺跡⁽³⁰⁾などが知られている。古墓は土豪層の墓と考えられる別所古墓群⁽³¹⁾が確認されている。

参考文献

- (1) 財団法人東広島市教育文化振興事業団「溝口2号遺跡発掘調査報告書」 平成17(2005)年
- (2) 広島県教育委員会「広島県遺跡地図Ⅱ」 平成6(1994)年
- (3) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「榎ヶ坪3号遺跡(A地区)」「東広島ニュータウン遺跡群1」 平成2(1990)年
- (4) 財団法人東広島市教育文化振興事業団「原の谷古墳・原の谷遺跡発掘調査報告書」 平成15(2003)年
- (5) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「宮領1号遺跡」「山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(IV)」 平成6(1994)年
- (6) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「浄福寺1号遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群Ⅲ」 平成5(1993)年
- (7) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「榎ヶ坪2号遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群1」 平成2(1990)年
- (8) 財団法人東広島市教育文化振興事業団「高屋東2・3号遺跡発掘調査報告書」 平成20(2008)年

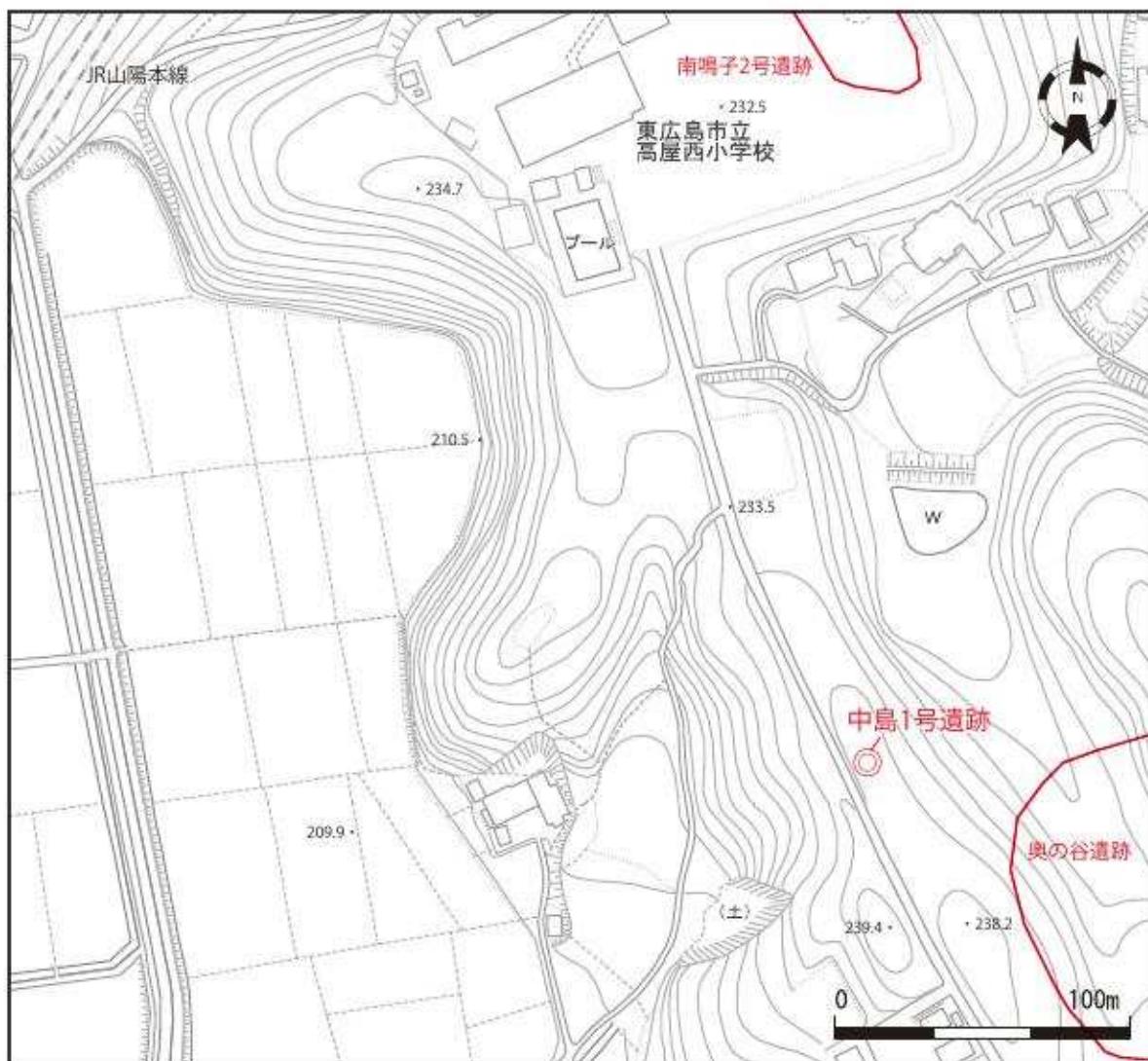
- (9) 広島県教育委員会「西本遺跡群—A・B・C地点」 昭和51(1976) 年
広島県教育委員会「西本遺跡群—D・E・F地点」 昭和51(1976) 年
財団法人東広島市教育文化振興事業団「西本2、3、4、7号遺跡発掘調査報告書」 平成11(1999) 年
財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「西本3・4号遺跡」 平成11(1999) 年
財団法人東広島市教育文化振興事業団「西本5号遺跡発掘調査報告書」 平成19(2007) 年
淡神文化財協会「西本6号遺跡発掘調査報告書」 平成7(1995) 年
財団法人東広島市教育文化振興事業団「西本6号遺跡発掘調査報告書」 平成8(1996) 年
財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「西本6号遺跡」 平成9(1997) 年
- (10) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「淨福寺2号遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群II」 平成5(1993) 年
(11) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「天神遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群III」 平成5(1993) 年
(12) 東広島市教育委員会「行徳1号遺跡」 平成26(2014) 年
(13) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「才が追遺跡」「山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(X)」
平成5(1993) 年
- (14) 古瀬清秀「白鳥古墳」「広島県大百科辞典」上巻 中国新聞社 昭和57(1982) 年
(15) 広島大学考古学研究室「千人塚古墳」 平成23(2011) 年
(16) 広島県教育委員会・広島県文化財協会「賀茂カントリークラブゴルフ場内遺跡群発掘調査報告」 昭和50(1975) 年
(17) 東広島市教育委員会「森信第10号古墳発掘調査報告書」 平成2(1990) 年
(18) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「原田岡山古墳」「山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(X)」
平成6(1994) 年
- (19) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「胡麻4号遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群I」 平成2(1990) 年
(20) 財団法人東広島市教育文化振興事業団「高屋東1号遺跡発掘調査報告書」 平成6(1994) 年
(21) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「胡麻2号遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群II」 平成2(1990) 年
(22) 財団法人東広島市教育文化振興事業団「高屋うめの辺1号・2号遺跡発掘調査報告書」 平成24(2012) 年
(23) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「西1地点遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群V」 平成5(1993) 年
(24) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「西4 地点遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群V」 平成5(1993) 年
(25) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「西5地点遺跡」「東広島ニュータウン遺跡群V」 平成5(1993) 年
(26) 東広島市教育委員会「頭崎城跡発掘調査報告書」 平成4(1992) 年
(27) 広島県教育委員会「御廟宇城跡」「広島県中世城館遺跡総合調査報告書」第2集 平成6(1994) 年
(28) 広島県教育委員会「白山城跡」「広島県中世城館遺跡総合調査報告書」第2集 平成6(1994) 年
(29) 財団法人東広島市教育文化振興事業団「古慈喜城跡発掘調査報告書」 平成4(1992) 年
(30) 財団法人東広島市教育文化振興事業団「御土居遺跡発掘調査報告書」 平成17(2005) 年
(31) 財団法人広島県埋蔵文化財調査センター「別所古墓群」「山陽自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告(X)」
平成6(1994) 年

*なお、参考文献の註番号と遺跡番号は一部をのぞき対応していない

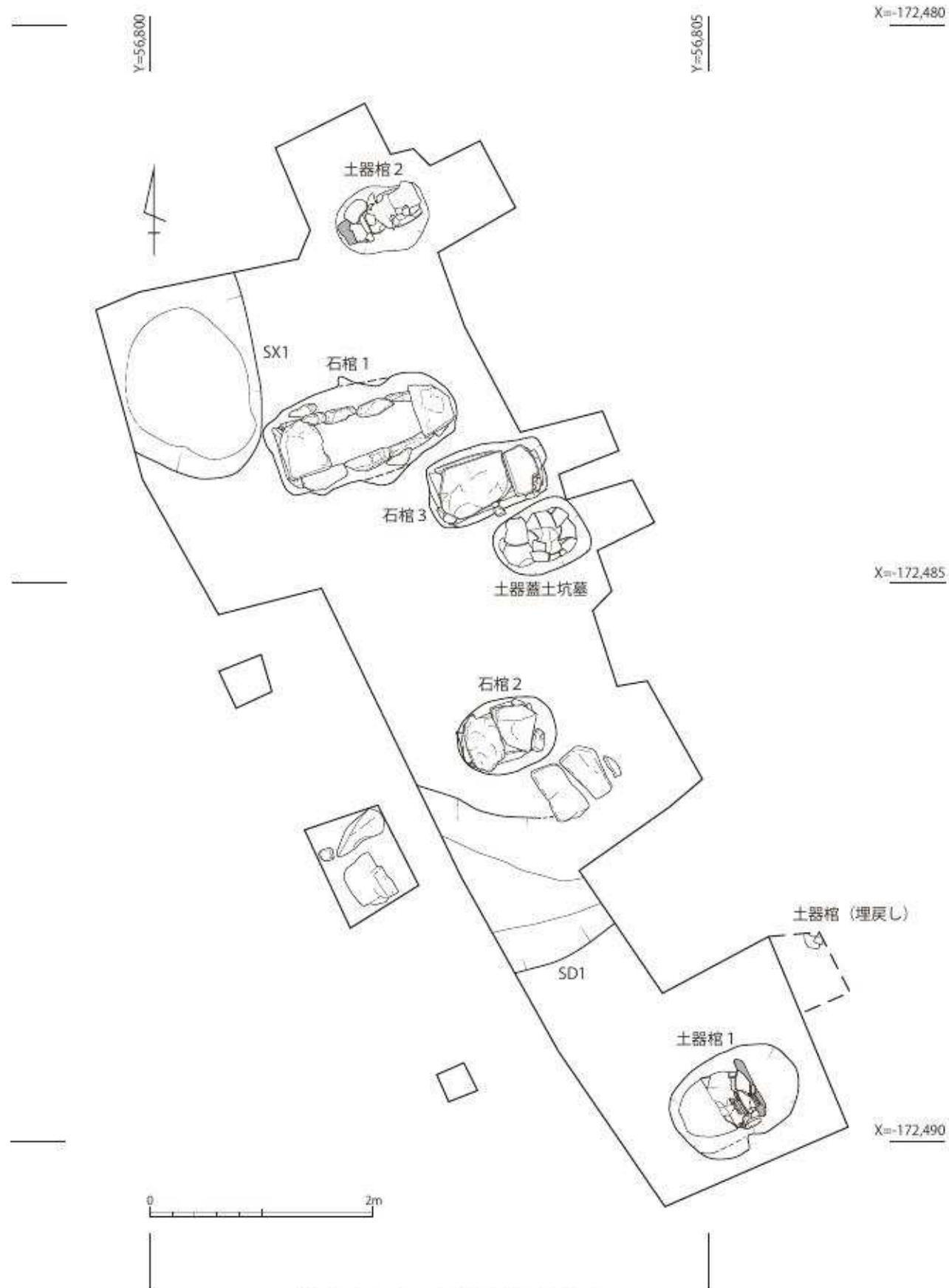
III 調査の概要

中島1号遺跡は入野川を西にのぞむ低丘陵上に位置し、遺跡の西側には東広島市立高屋西小学校の通学路となっている市道宮領14号線が隣接する。遺跡周辺は現状、雑木林となっているが細い雑木ばかりの既に一度開墾された土地であり、丘陵部も西側は隣接する市道によって一部削平を受けている。このため遺構面までの土層堆積は表土から厚さ50cm前後と浅めである。

発掘調査は携帯電話無線基地局新設工事にともなうもので、調査面積約23m²と狭小な調査区となった。狭い範囲での調査であったため、表土剥ぎおよび掘削は基本的に人力で行い、その後、精査作業と遺構検出、実測および写真撮影などを行った。なお、複数個所に設けられた四角形の掘り込みは無線基地局外周のフェンス基礎設置部分である。調査の結果、石棺3基、土器棺2基、土器蓋土坑墓1基、溝状遺構1条、性格不明土坑1基を検出した。遺物は、土器棺に使用されたものを除きほとんど出土せず、いずれも弥生時代後期のものと考えられる。



第2図 遺跡周辺地形図 (1:2,500)



第3図 中島1号跡遺構配置図 (1:50)

IV 遺構と遺物

1. 遺構について（第3図、図版1）

本遺跡では、石棺3基、土器棺2基、土器蓋土坑墓1基、溝状遺構1条、性格不明の土坑1基を検出した。遺物は土器棺に使用された弥生土器および性格不明の土坑から出土した土器小片1点のみで、いずれも弥生時代後期のものと考えられる。

以下、発掘調査で検出した遺構と、それにともなう遺物について詳述する。

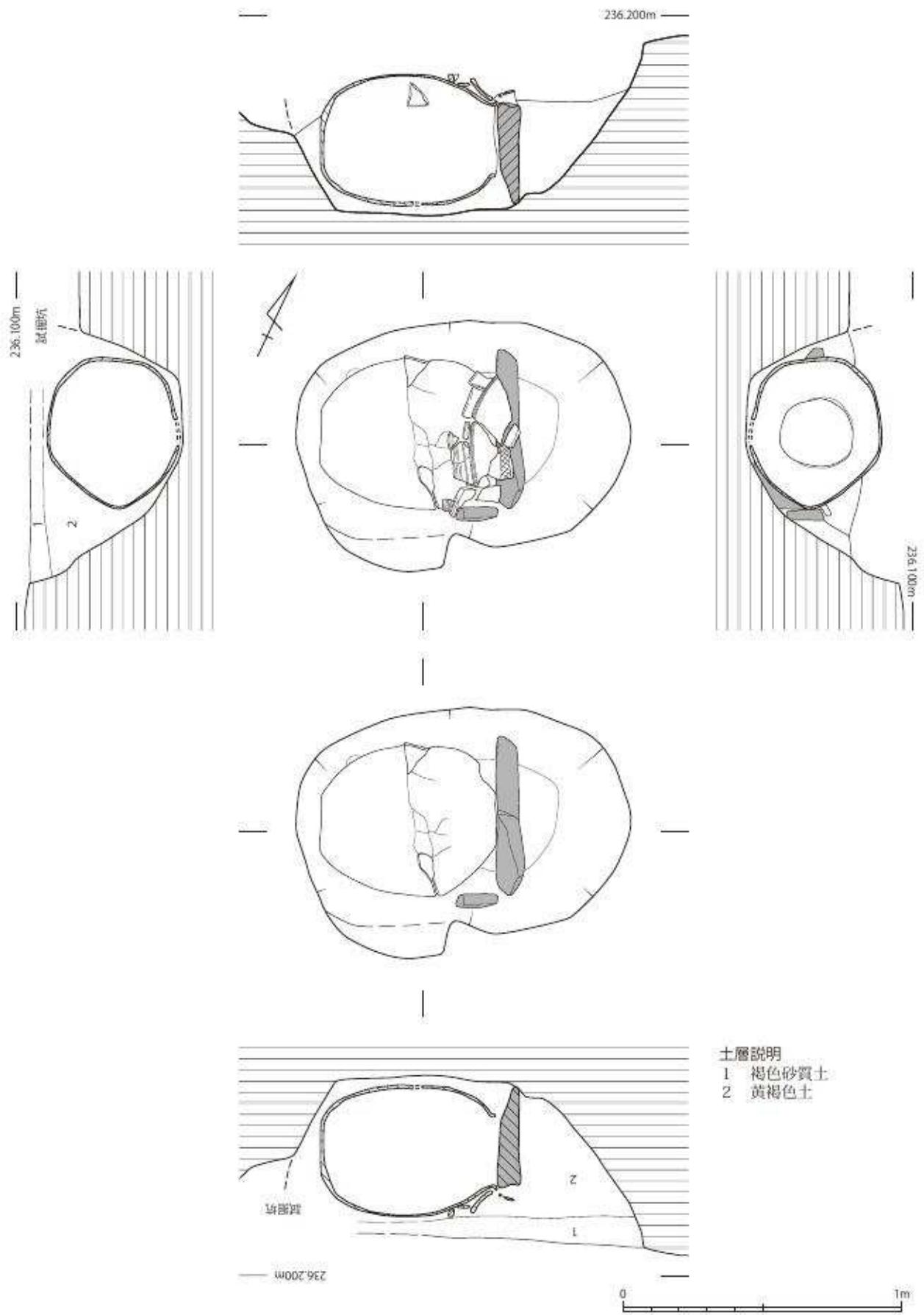
土器棺1（第4図、図版2）

土器棺1は調査区南端に位置し、試掘調査時に一部を検出したもので、その後の発掘調査時に全体を検出、完掘した。地山を長軸約120cm、短軸約90cm、深さ約60cmまで楕円形に掘り込んだ後、ほぼ水平に壺形土器と石蓋を組み合わせた棺を安置している。埋土は第1層の褐色砂質土（厚さ約10cm）、第2層の黄褐色砂質土（厚さ約50cm）からなる。土器棺はほぼ方位を東西にとり、大型の壺形土器の口縁部を割ってとりのぞいた胴部を棺身とし、長辺約60cm、短辺約40cm、厚さ約4～10cmの平石を石蓋として、石蓋と土器棺身のすき間に壺形土器の割った口縁部を差し込むことで棺内を密閉している。棺身の地面側に長辺9cm、短辺3cmほどの穴が打ち欠いてあり、水抜き穴の可能性がある。また棺身と割った口縁部の固定用と考えられる小型の側石が南側に補助的に設けられていた。棺身の内法は長さ約60cm、直径約45cmである。

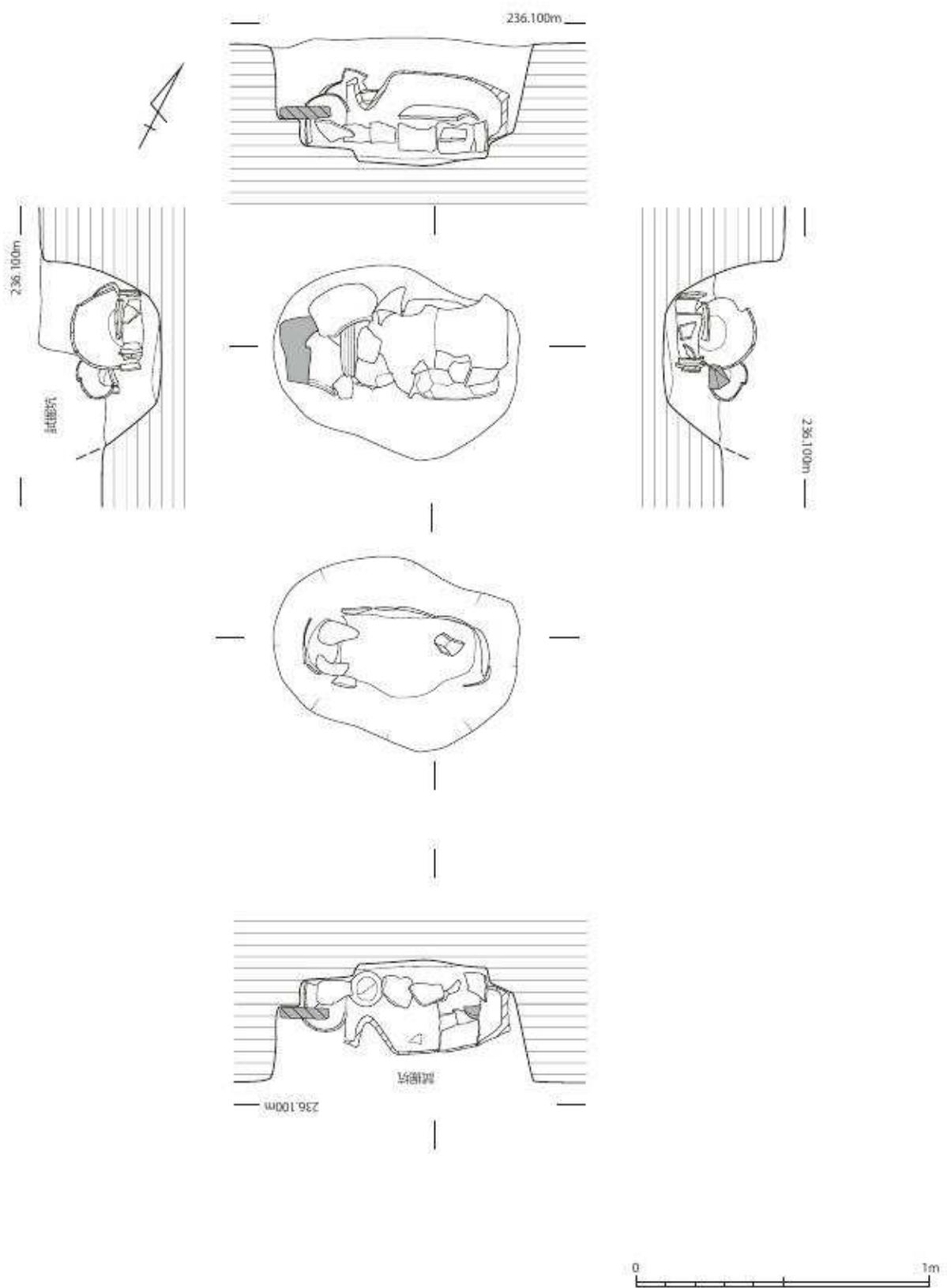
棺内は土器上面の割れ目から木の根が侵入したことによる流入土をのぞけば、遺物や骨などは検出されなかった。もとの棺内は中空であったと考えられ副葬品もなかったものと推測される。一部に欠損はあったものの土器棺全体の保存状態は良く、使用された壺形土器も口縁部と貼付突帯の一部をのぞきほぼ完形で復原できた。

土器棺2（第5図、図版2）

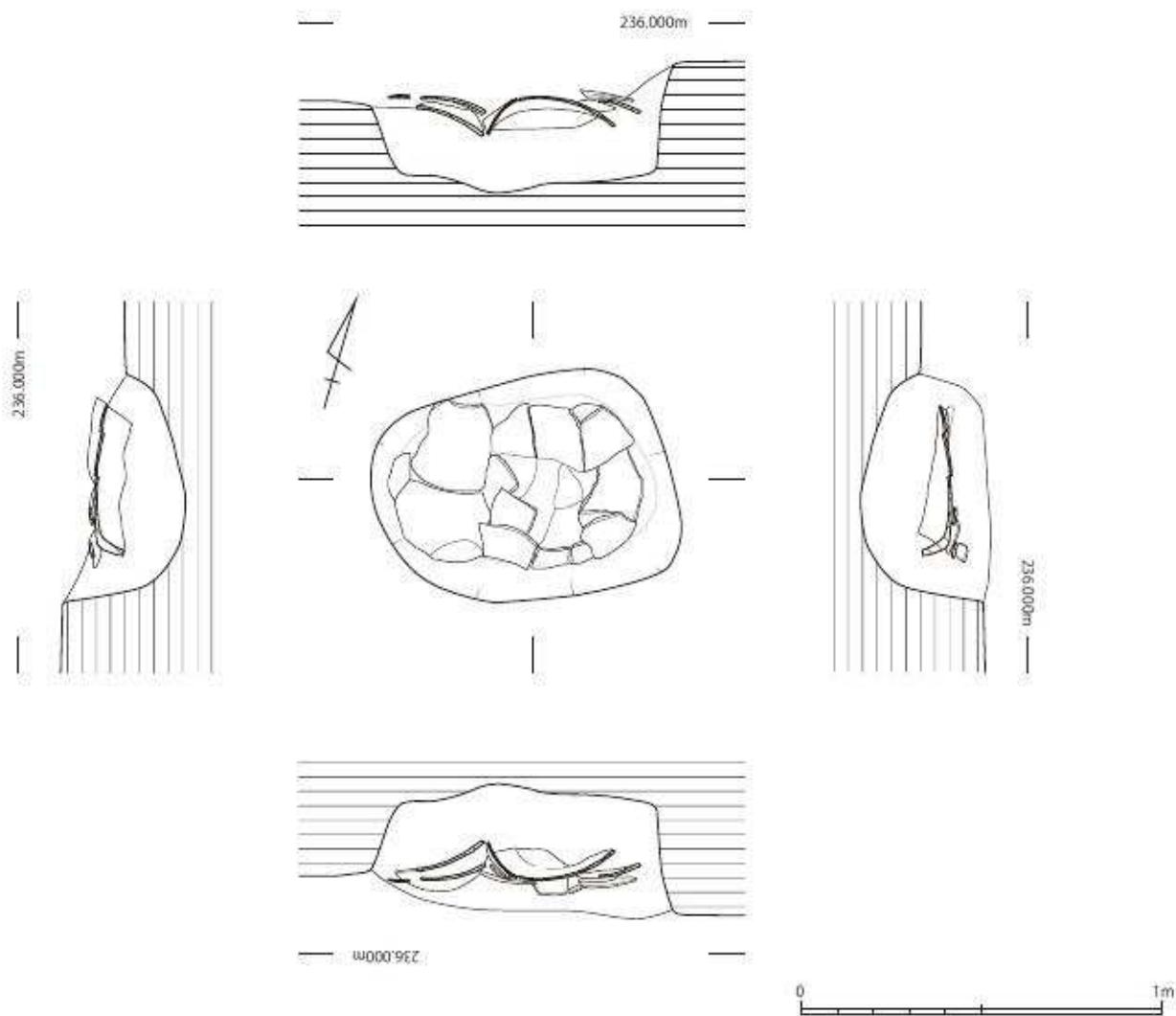
土器棺2は計画地北端から検出された壺形土器と甕形土器を組み合わせた土器棺である。地山を長軸約85cm、短軸約65cm、深さ約30cmまで掘り込んだ後に段差を設けて長軸約60cm、短軸約40cm、深さ約10cmの土坑を掘り込み、棺身の側壁用となる土器を立て並べている。なお、土坑の段差のうち短軸側は石棺1を試掘した際に削平しており不明瞭である。埋土はやや粘質の褐色土（厚さ約40cm）である。土器棺2も主体部の方位はほぼ東西方向をとる。棺身の主要な部分は高さ約60cmの壺形土器を縦方向に半分に分割し、片方を側壁用に割って地面に立て並べた後、残り半分を上蓋として被せている。また土器棺の上下に石を配置して棺身を固定し、さらに壺形土器だけでは埋めきれない隙間を塞ぐように甕形土器1個体を分割し、周間に配置している。土器棺の中から遺物は出土していないが、棺身内の側壁用土器に1点のみ、外側の隙間埋めに使用されている甕形土器の底部が置かれていた。棺身となる側壁用土器を並べた際の寸法は内法で長軸約60cm、短軸約20～25cm、深さ約15cmである。



第4図 土器棺1実測図 (1:20) ■は石



第5図 土器棺1実測図 (1:20) ■は石



第6図 土器蓋土坑墓実測図 (1 : 20)

土器蓋土坑墓（第6図、図版4）

土器棺2から南側へ約2mの位置で土器蓋土坑墓1基が石棺3と並んで検出されている。こちらは地山を長軸約85cm、短軸約60cm、深さ約30cm掘り込んだ後に褐色土の埋土を充填し、底部から胴部にかけての土器片を平らに二重、三重に並べて蓋代わりとしている。土器棺、石棺と同じく土坑長軸の方位は東西方向である。土坑内から遺物は出土していない。土器蓋に使用された土器はかなり大型のもので胴部から頭部へ向けての形からもとは壺形土器であったものと考えられる。

石棺1（第7図、図版3）

石棺1は調査区北半の中央から試掘調査時に検出した石棺である。試掘調査で発見した時点で上蓋が外されていたことから盗掘を受けたものと考えられる。石棺1を埋設した際の掘り方については上面が盗掘によるかく乱を受け不明瞭となっており、残存部分で長軸約170cm、短軸約90cm、深さ約50cmの東西方向である。石棺は外法が長軸約160cm、短軸約50～70cm、深さ約30cmで内法が長軸約130cm、短軸約30～40cm、深さ約30cmである。石材は花崗岩で近隣の石を使用したと考えられる。盗掘を受けていることもあり内部から遺物は出土していない。なお、石棺1の検出された遺構面は周辺の石棺3や土器棺2の遺構面と比べて標高が20cmほど下がる。また盗掘によるかく乱により、もとの石棺1の埋土は失われている。

石棺2（第8図、図版3）

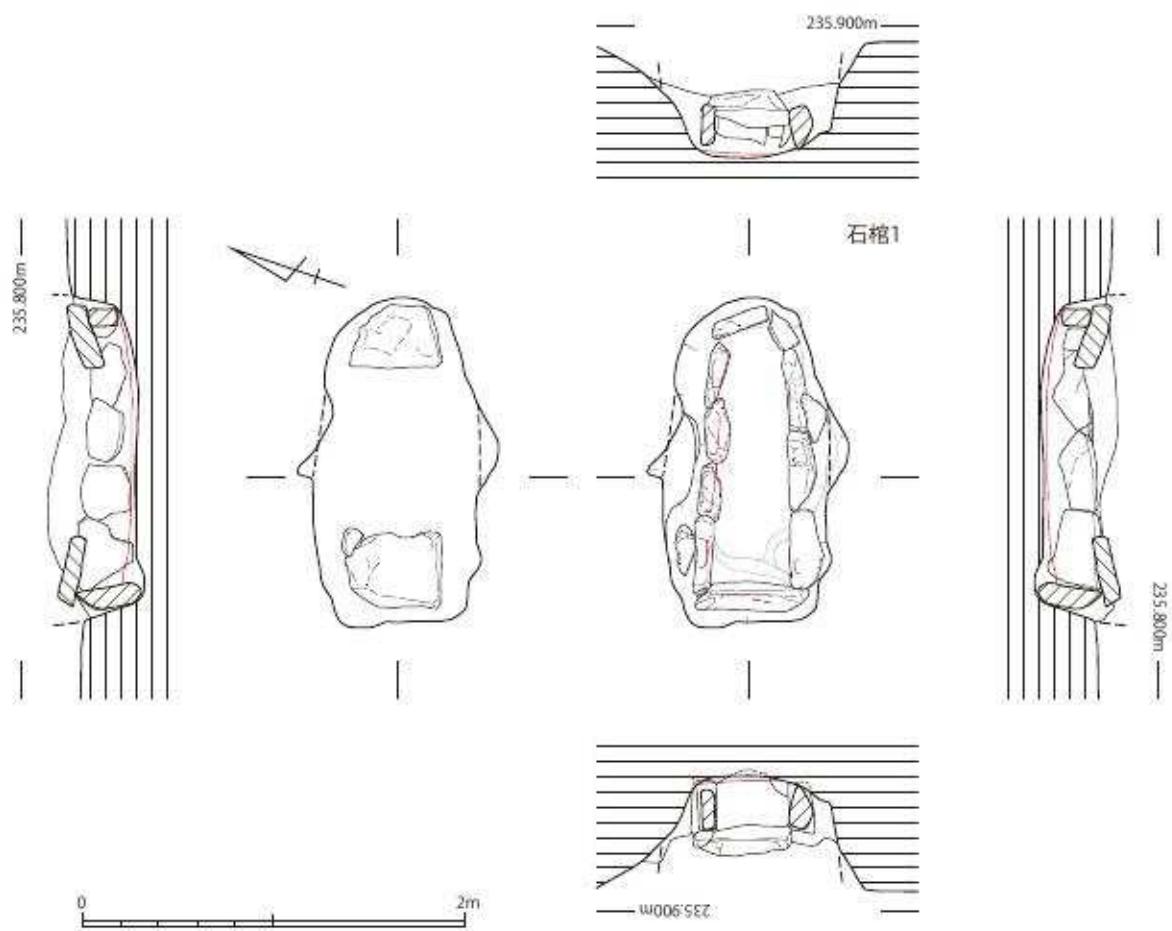
石棺2は調査区中央から試掘調査時に西半を検出した小型の箱式石棺である。地山を長軸約90cm、短軸約65cm、深さ約40cm掘り込み東西方向に石棺を安置している。石棺は外法が長軸約75cm、短軸約50cm、深さ約35cmで内法が長軸約50cm、短軸約30cm、深さ約20cmである。埋土は大半が第1層の明黄褐色土でφ5～6mmの小礫を含み厚さ約35cm、底部付近の第2層は明褐色土でしまりのない砂質土、厚さ約5cm程度である。石材は近隣の花崗岩を使用し、底部に石は使用されていない。また石棺内部から遺物は出土していない。

石棺3（第9図、図版4）

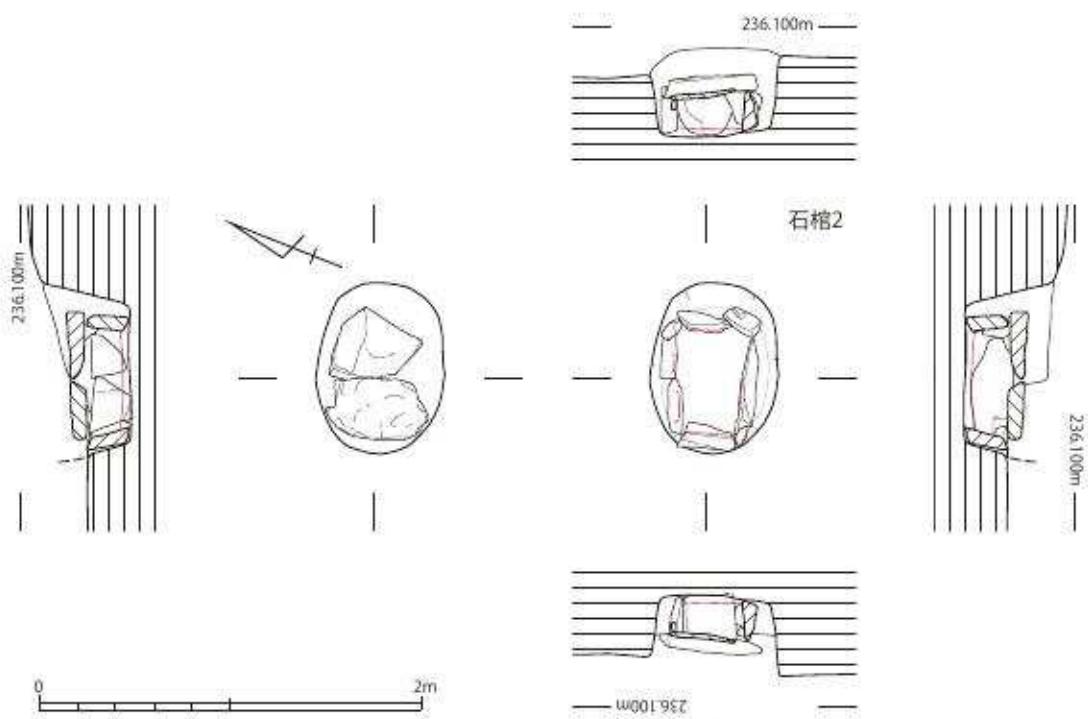
石棺3は調査区北半東側で土器蓋土坑に隣接して検出された箱式石棺である。石棺1とも隣接するが土層の切り合いから石棺3の方が後に作られたことが分かる。切り合の上面は石棺1の盗掘によりかく乱されており不明瞭である。地山を長軸約120cm、短軸約50～65cm、深さ約40cm掘り込み東西方向に石棺を安置している。石棺は外法が長軸約95cm、短軸約50cm、深さ約35cmで内法が長軸約50cm、短軸約30cm、深さ約20cmである。埋土は大半が第1層の黄褐色土で厚さ約35cm、底部付近の第2層は明褐色土でしまりのない砂質土、厚さ約5cm程度である。石材は近隣の花崗岩を使用、底部に石は使用されていない。また石棺内部から遺物は出土していない。

SD1（第10図、図版1）

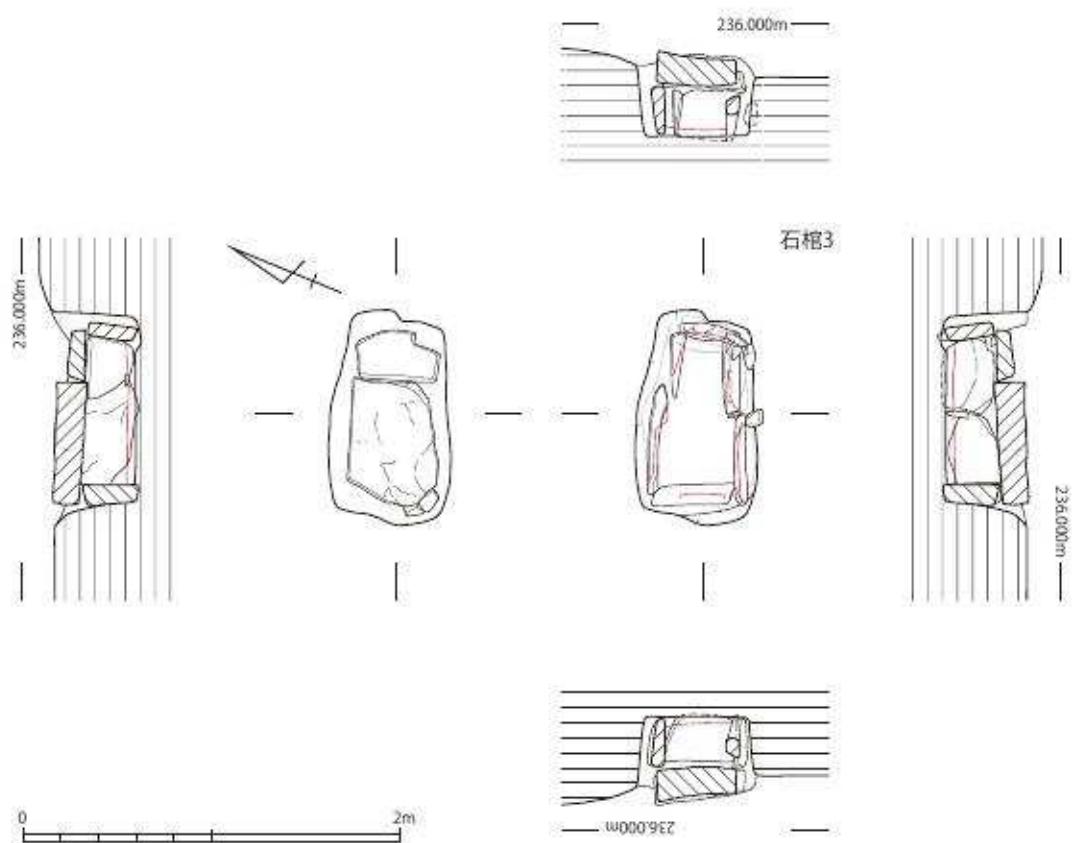
SD1は調査区南半で土器棺1と石棺2の間から検出された溝状遺構である。規模は南北幅約200cm、深さ約90cmで調査区外まで延びるため東西方向の延伸状況は不明である。埋土は第1層が褐色砂質土で厚さ約15cm、第2層が暗褐色砂質土で厚さ約25cm、第4層が褐色砂質土で厚さ約25cmである。遺物は出土していない。なお、溝状遺構の進行方向からは50cm程度の比較的大きな礫がいくつか検出されているが、いずれも原位置はとどめておらず後世のかく乱によるものと考えられる。



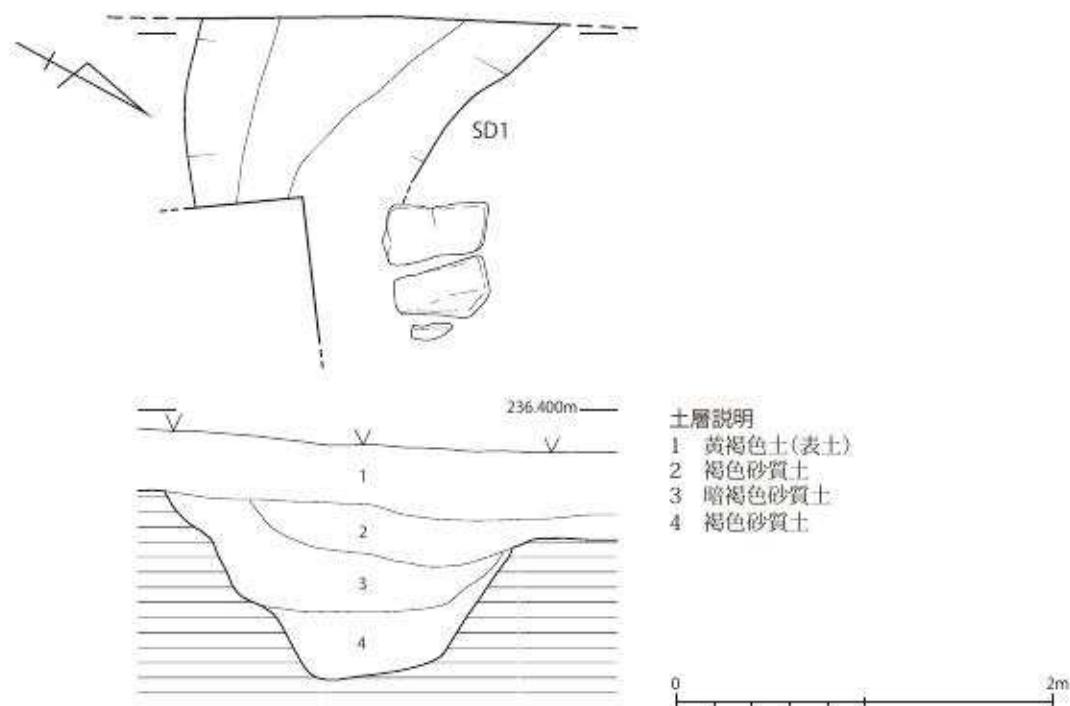
第7図 石棺1実測図 (1:40) 赤線は棺床土



第8図 石棺2実測図 (1:40) 赤線は棺床土



第9図 石棺3実測図 (1:40) 赤線は棺床土



第10図 SD1実測図 (1:40)

SX1（第3図、図版1）

SX1は調査区北端で石棺1のすぐ西側から検出された性格不明の掘り込みである。規模は南北軸約135cm、東西軸約100cm、深さ約70cmで梢円形を呈する。埋土の上層から弥生土器の小片が出土しているが、石棺1が盜掘された際のかく乱埋土との境界が不明瞭であったことから、こちらも同時期のかく乱である可能性が高い。弥生土器小片のほかに遺物も出土しなかったため、盜掘時期は不明である。

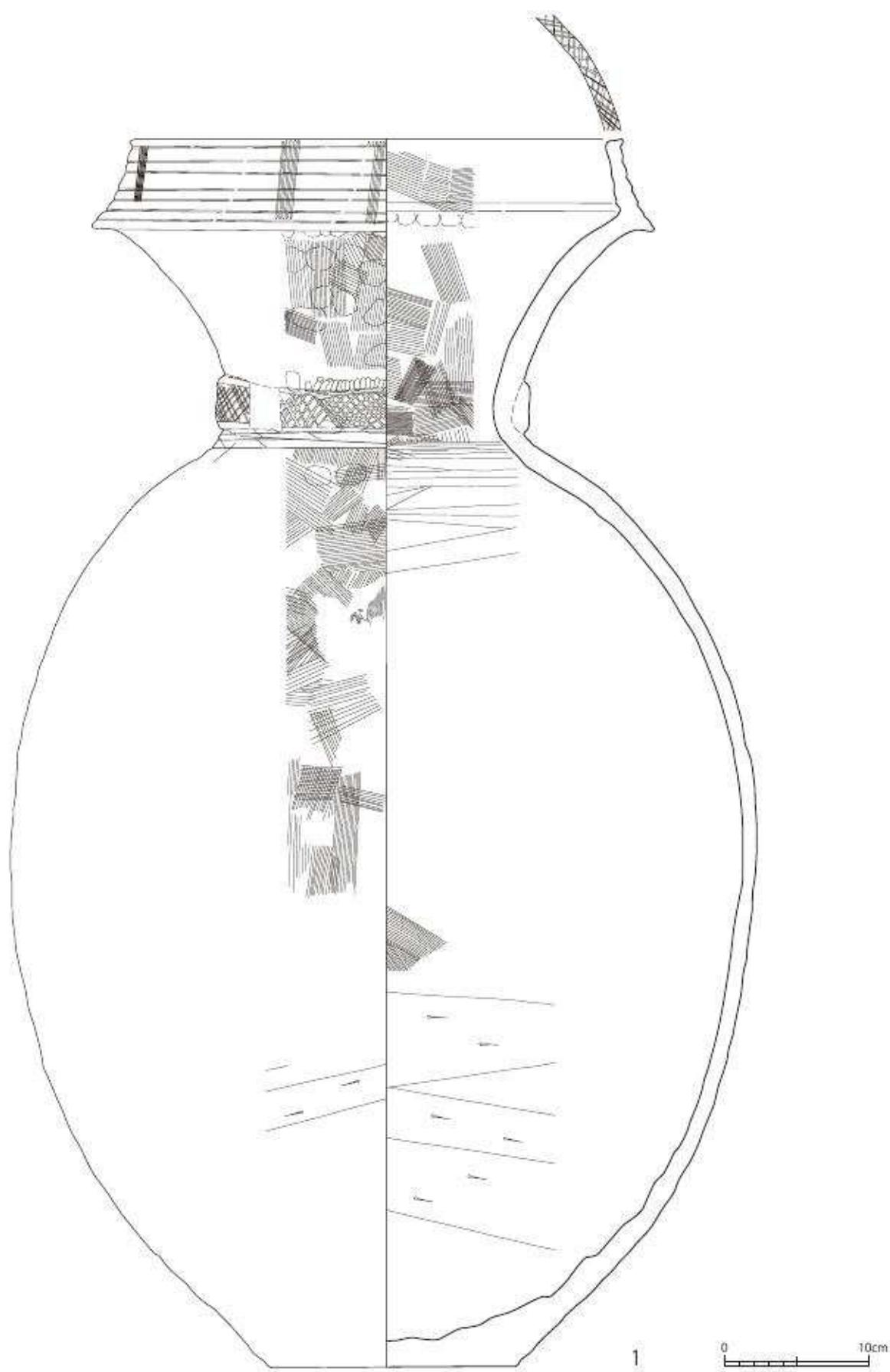
なお、開発計画地のうち複数個所に長軸約40～50cm、短軸約40cmのフェンス基礎設置部分を調査するための方形、または長方形の掘り込みを設けた。そうしたところ、南西側の1ヶ所で人頭大の礫片（第3図、図版1）が検出されたことから、この個所のみ長軸約105cm、短軸約70cmと調査用の掘り込みを拡張した。ただし礫片が検出された深さがほかの石棺群より浅かったことから、SDIの落ち込みに沿って後世のかく乱で流れ込んだものと考えられる。

2. 遺物について（第11～13図1～4、図版5）

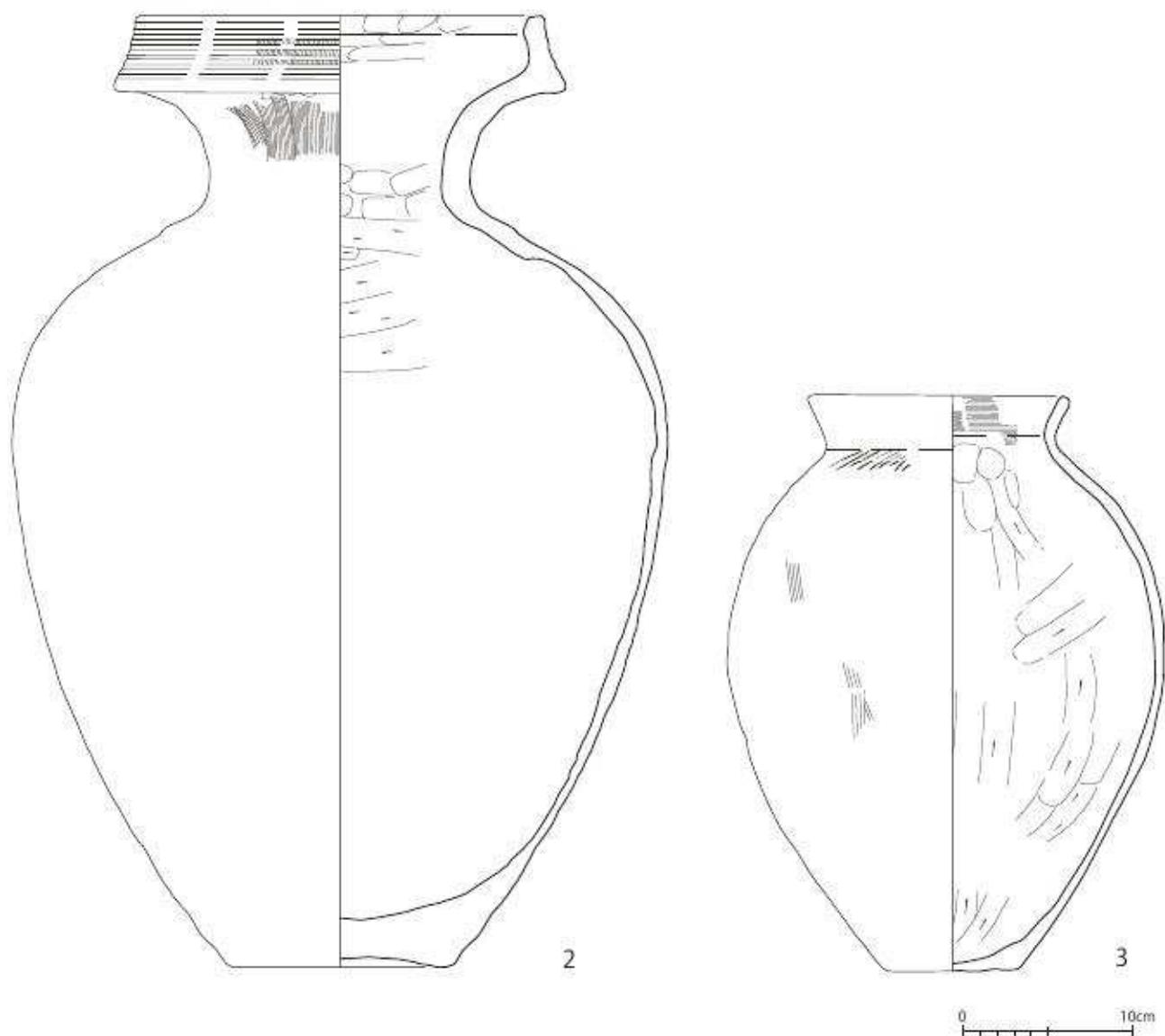
出土した遺物はいずれも弥生土器で1は土器棺1に使用された大型の壺形土器、2・3は土器棺2に使用された壺形土器1点、甕形土器1点、4は土器蓋土坑墓に使用された甕形土器または壺形土器の底部から胴部にかけての破片1点が出土しており、ほかには後世のかく乱と考えられるSX1で土器の細片が出土したのみである。

1は特に大型の壺形土器で、土器棺1として分割されていたものを復元したところ、口径33.7cm、器高85.1cm、底径17.6cmを測る。複合口縁の口縁部と頸部の貼付突帯以外はほぼ完形である。ゆるやかに外反する口縁部の上段を内側に折り返して、施文帯を設けており、7条の凹線文を施した後、タテ方向の櫛目文が2本組で複数刻まれている。頸部屈曲部には突帯が貼り付けられ、ヘラによる×字型の刻み目を全体に巡らせている。器壁外面には主に上下方向のハケ調整、指頭圧痕、ナデ調整がみられる。胴部のうち底部から3分の1あたりで調整が異なり別々に作った胴部を接合したものと考えられる。底部は底径17.6cmとやや狭いが完形の状態で自立する。内面にもハケ調整が施されており複合口縁の接合部には指頭圧痕がみられる。また口縁部に比べ胴部は歪みが大きい。外面は黄橙色、内面は橙色を呈し、胎土は砂粒含みで粗いが焼成は良好で固くしまる。なお、口縁下部外面に線状の傷跡がみられるが人為的なものかは不明である。

2も壺形土器で、土器棺2に使用されていたものを復元したところ、口径24cm、器高55.9cm、底径13.2cmを測る。使用部分のうち半分は複数点に分かれていたが口縁部と胴部の一部をのぞきほぼ完形に復元できた。ただし貼付突帯は分割時に失われており貼付痕のみが残る状態である。口縁部は複合口縁で6条の凹線文を施した後、タテ方向のハケ調整がなされている。胴部の調整は風化による摩耗のため不明瞭だが頸部には指頭圧痕がみられる。内面はナデとケズリにより調整されている。内外面ともに橙色を呈し、胎土は粗く焼成は良好である。



第11図 出土遺物実測図1 (1:4)



第12図 出土遺物実測図2 (1:4)

3は甕形土器で、2の壺形土器を分割した棺身の隙間を埋めるように使用されていた。こちらは全体の形状は復元できるものの欠損している部位も多い。口径15.4cm、器高34cm、底径8cmを測る。外面には二枚貝による刺突文がみられるが、ほかの調整はハケなどがみられるものの風化による摩耗が著しく不明瞭である。内面は口縁部付近がナデとハケ目、胴部がタテ方向のケズリにより調整されている。内外面ともに明黄褐色土を呈し、胎土は粗く焼成は良好である。

4は土器蓋土坑墓に使用された壺形土器で、口縁部から胴部の一部にかけては欠損している。胴部までの残存高55.1cm、底径15.4cmを測る。外面がハケとナデ調整され、内面にはハケとナデ、ケズリ調整がみられる。



第13図 出土遺物実測図3(1:4)

第1表 中島1号遺跡出土遺物観察表

遺物番号	出土地点	種別	器形	法量(cm) ()は復元値	胎土	焼成	色調	調整	備考
1	土器棺1	再生土器	壺	口径: (33.7) 器高: 85.1 底径: 17.6	粗	良	外面: 黄橙 内面: 橙	外面: 四線文(7条)後に縦方向の織目(5条)、ハケメ・指頭圧痕・ナデ・格子文を施した貼付突帯 内面: 格子文(口縁部)・ナデ・ハケメ・ミガキ・ケズリ	
2	土器棺2	再生土器	壺	口径: (24.0) 器高: 56.9 底径: 13.2	粗	良	外面: 橙 内面: 橙	外面: 四線文(6条)後にハケメ・指頭圧痕・ナデ後ハケメ・ナデか(風化のため不明瞭) 内面: ナデ・ケズリ	頭部に貼付突帯痕有り
3	土器棺2	再生土器	壺	口径: 15.4 器高: 34.0 底径: 8.0	粗	良	外面: 明黄褐 内面: 明黄褐	外面: 二枚貝による刺突文・ナデか(風化のため不明瞭)・ハケメか(風化のため不明瞭) 内面: ハケメ・ナデ・ケズリ	
4	土器蓋土坑墓	再生土器	壺	口径: — 器高: 残存 55.1 底径: 15.4	粗	不良	外面: 黄橙 内面: 灰白-浅黄橙	外面: ハケメ・ナデ 内面: ケズリ・ナデ・ハケメ	

V まとめ

遺構について

中島1号遺跡は弥生時代後期中葉からやや下る時期で、土器棺2基、土器蓋土坑墓1基、石棺3基が狭い範囲に密集すること、検出した6基の墓のうち多くが内法1mに満たない幼小児墓（もししくは再葬墓）であること、埋葬方法が多様なことなどが特徴としてあげられる。石棺1はやや規模が大きいが、後世の盜掘で蓋石が外されており、詳細な性格は不明である。いずれの墓からも副葬品は出土していない。なお、試掘調査では他に石棺2基、土器棺1基を検出しているが、工事の影響が及ばない範囲であったことから、埋め戻しを行い現地保存している。

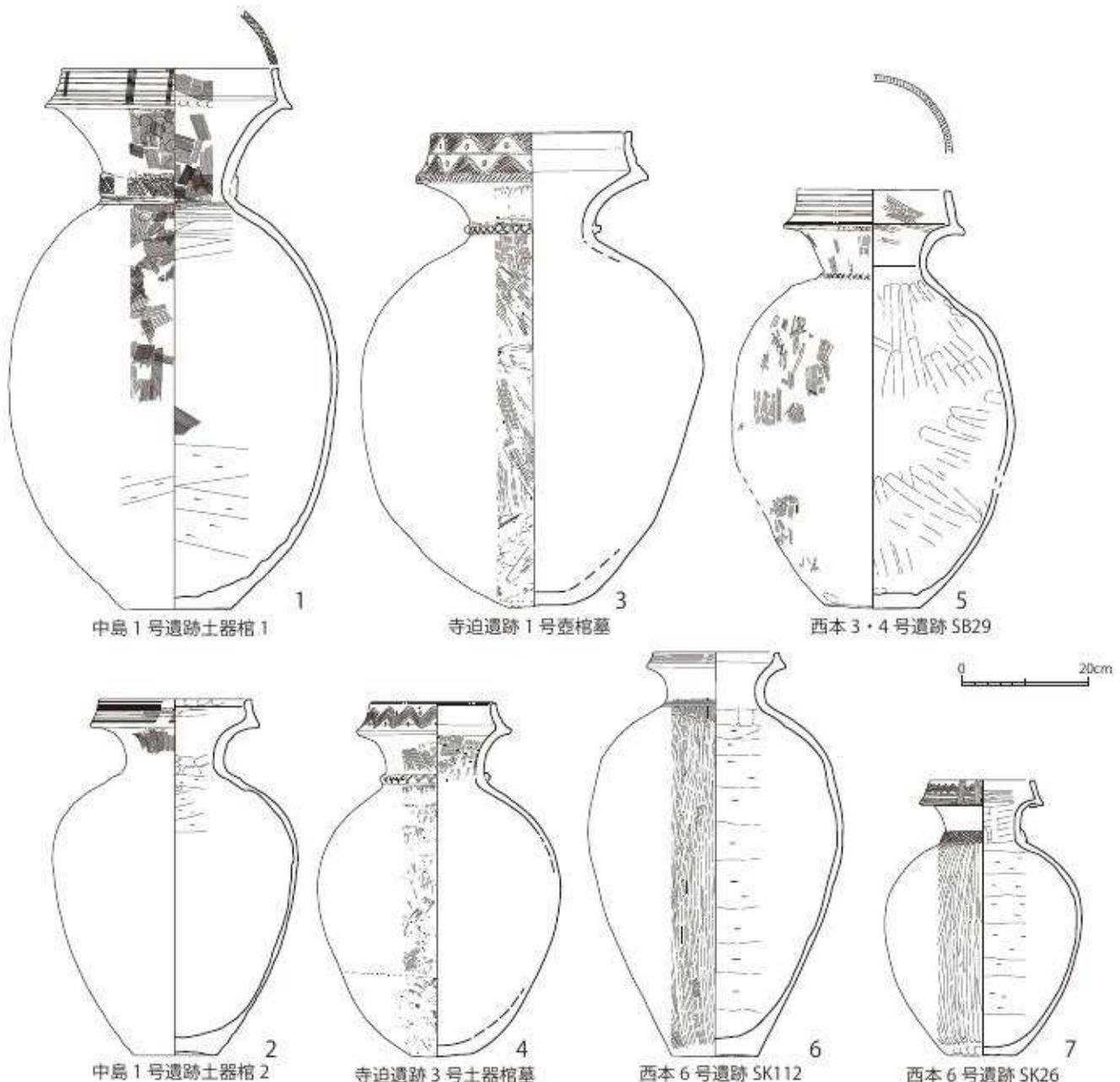
このような壺形土器棺を使用する東広島市内の類例としては入野川を挟んで北側に位置する西本6号遺跡^⑪の墳墓群から検出された土器棺群がある。立地についても西方をのぞむ丘陵上にある点、土器棺と石棺、土器蓋土坑墓が混在する点、東西方向を軸として平行に並べた墓域を形成する点など、多くの共通点があり、埋葬習慣を同じくする集団であったと考えられる。また西本6号遺跡全体では成人墓と幼小児墓の割合は50%ほどで等しくなることから、中島1号遺跡についても広域的には同様な傾向を示す可能性がある。他にも西本6号遺跡では木棺痕跡の残る土坑墓SK65出土のガラス製の切子玉など限られた墓で副葬品が見つかっており、中島1号遺跡でも周辺から副葬品をもつ墓が発見される可能性がある。

広島県内の類例としては広島市の寺迫遺跡の土器棺3基^⑫などがあげられる。使用されている壺形土器の形態的特徴はよく類似しているが中島1号遺跡や西本6号遺跡の土器棺に比べ土器頸部の貼付突帯が形骸化しておらず縄としての形状を保っていることから、やや先行する時期のものと考えられる。

遺物について（第14図1～7）

中島1号遺跡から出土した土器はいずれも土器棺に使用されたもので大型の壺形土器が3点と甕形土器が1点である。このうち大型の壺形土器は西瀬戸内周辺を中心に分布し、その多くが土器棺に使用されていることから、これらが土器棺用の土器として製作されたとも考えられる。中島1号遺跡で土器棺1に使用された壺形土器は県内でも大型の部類で、近隣の西本6号遺跡で土器棺に使用された器高40～60cm程度のものが中心だが、土器棺1使用品は復元で器高85.1cmを測る。これは広島市の寺迫遺跡から出土した器高約77cmの壺形土器と同等で、大型化による胴体の歪みがみられる点も共通する。ただし先述したように縄状の貼付突帯が寺迫遺跡のものは形骸化していないため、中島1号遺跡のものはやや下る時期に西方から伝播したものと考えられる。これら大型の壺形土器は底径が小さく胴部もやや歪んでおり、貯蔵など日常用途には不向きとも思えるが、西本3・4号遺跡^⑬では住居跡SB29から全高65.5cmの壺形土器が出土しており、土器棺以外の用途にも使用されていた可能性がある。

今回の調査範囲は約23mのごく限られた範囲であり、もとの中島1号遺跡の墓域は大規模なものである可能性が高い。中島1号遺跡は西本遺跡群とあわせ当該地域の弥生時代後期墳墓群のあり方を考えるうえで貴重な遺跡であり、今後の周辺での調査に期待したい。



第14図 壺形土器の他遺跡類例 (1:10)

(註)

- (1) 財團法人広島県埋蔵文化財調査センター「西本6号遺跡」1997(上図6,7は報告書第213図272、第209図255からトレース、一部改変)では弥生～古墳時代初頭の墳墓群から箱式石棺墓42基、石蓋土坑墓13基、小口配石土坑墓20基、土坑墓74基、土器棺5基、土器蓋土坑墓9基を検出している。特にSK26出土の上図7は2本一組の縦方向の縫目や形骸化した格子目の貼付突帯の文様が中島1号遺跡で土器棺1に使用された上図1に類似する。またSK112出土の上図6は中島1号遺跡の土器棺2と同じく割った土器を箱形に組み合せた土器棺に使用されていた。
- (2) 広島県教育委員会「寺迫遺跡」「高陽新住宅市街地開発事業地内埋蔵文化財発掘調査報告」1977(上図3,4は報告書第135図1,2からトレース、一部改変)では弥生時代の住居跡近くから3基の土器棺を検出している。上図3は特に大型(器高77cm)で貼付突帯が形骸化せず縫目を保っていることが特徴である。また上図4は中島1号遺跡の土器棺2と同じく割った土器を箱形に組み合せた土器棺に使用されていた。
- (3) 財團法人東広島市教育文化振興事業团「西本2,3・4,7号遺跡」1999(上図5は報告書第55図123からトレース、一部改変)では弥生時代の整穴住居跡SB29から大型壺形土器(復元器高65.5cm)が出土している。

図 版

図版 1



a. 遺跡調査前風景（南から）



b. 作業風景（南東から）



c. 検出状況全景（南東から）



d. 完掘全景（南東から）



e. SD1土層断面（北東から）



f. SD1完掘（北西から）

図版2



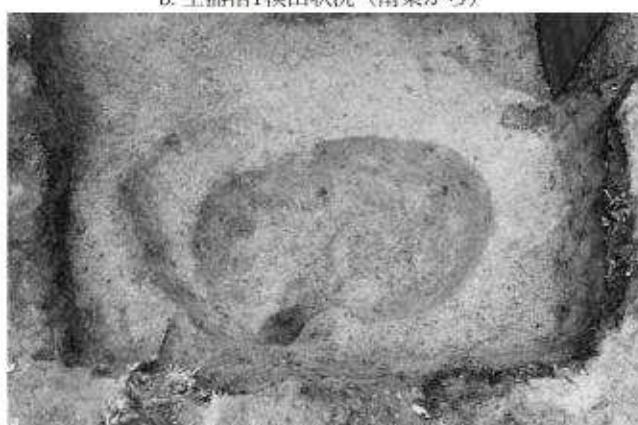
a. 土器棺1土層断面（北西から）



b. 土器棺1検出状況（南東から）



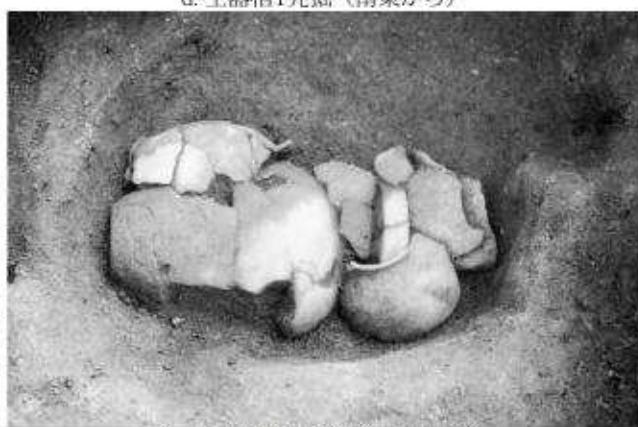
c. 土器棺1小口石検出状況（南東から）



d. 土器棺1完掘（南東から）



e. 土器棺2土層断面（南東から）



f. 土器棺2検出状況（北西から）



g. 土器棺2蓋取外し後（北西から）

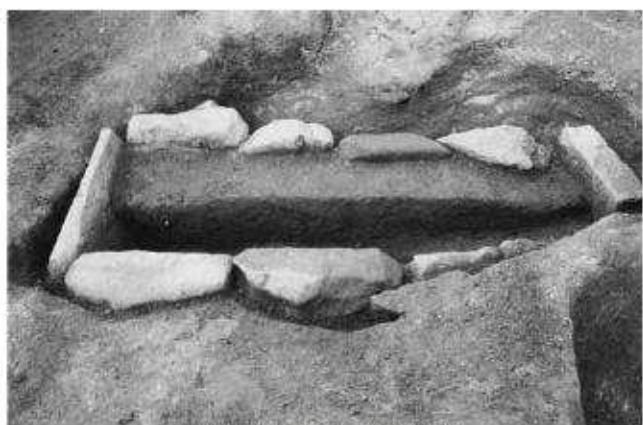


h. 土器棺2完掘（北西から）

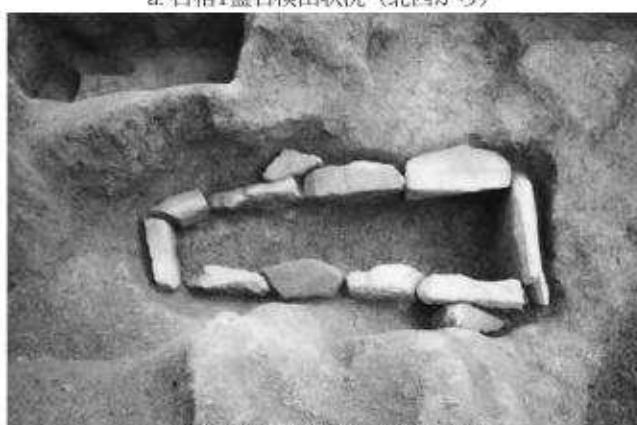
図版 3



a. 石棺1蓋石検出状況（北西から）



b. 石棺1土層断面（南東から）



c. 石棺1側石検出状況（北西から）



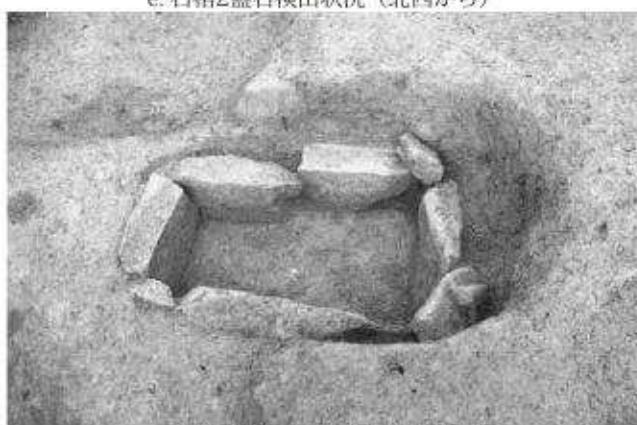
d. 石棺1完掘（北西から）



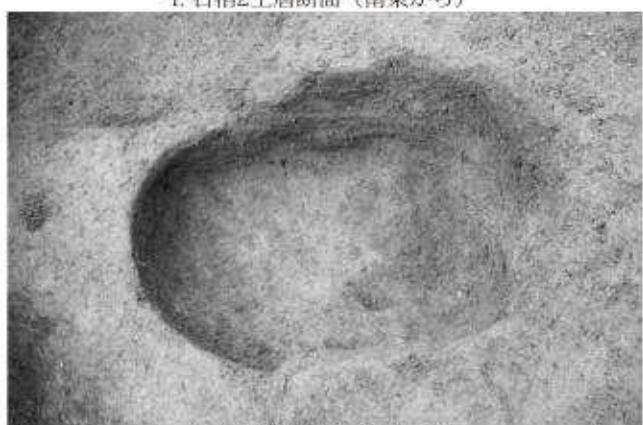
e. 石棺2蓋石検出状況（北西から）



f. 石棺2土層断面（南東から）



g. 石棺2側石検出状況（南東から）



h. 石棺2完掘（南東から）

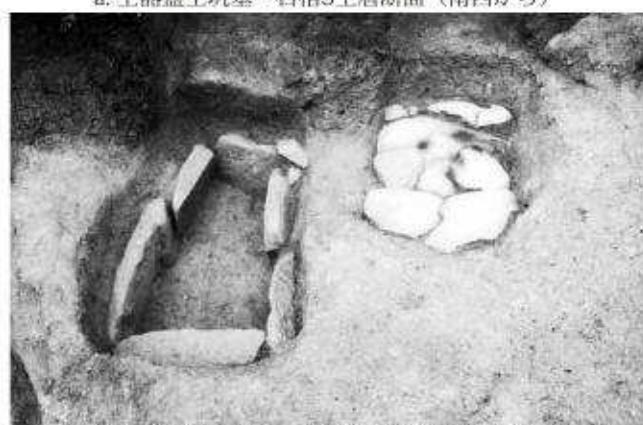
図版 4



a. 土器蓋土坑墓・石棺3土層断面（南西から）



b. 土器蓋土坑墓検出状況・石棺3蓋石検出状況（南西から）



c. 土器蓋土坑墓検出状況・石棺3側石検出状況（南西から）



d. 土器蓋土坑墓検出状況（南東から）



e. 土器蓋土坑墓土層断面（南東から）



f. 土器蓋土坑墓完掘（南東から）

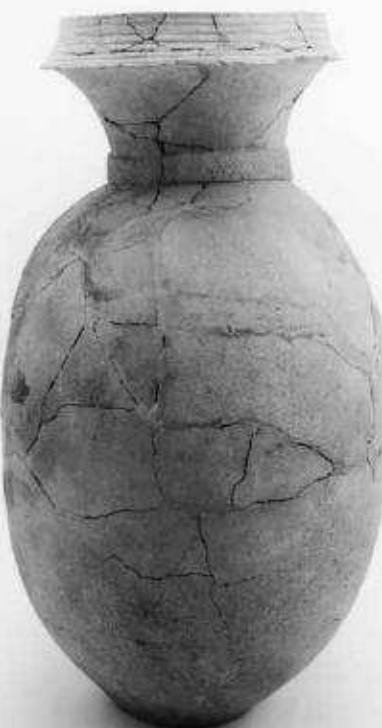


g. 石棺3土層断面（南東から）



h. 石棺3完掘（南東から）

図版 5



1



2



3



4

出土遺物

報 告 書 抄 錄

ふりがな	なかしま1ごういせき							
書名	中島1号遺跡							
副書名	東広島高屋中島無線基地局新設工事に係る発掘調査							
卷次								
シリーズ名	東広島市教育委員会文化財調査報告書							
シリーズ番号	第50集							
編集者名	津田真琴							
編集機関	東広島市出土文化財管理センター（東広島市教育委員会文化課調査係）							
所在地	〒739-2201 広島県東広島市河内町中河内651番7号 TEL 082-420-7890							
発行機関	東広島市教育委員会							
所在地	〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号							
発行年月日	西暦2015年3月27日							
ふりがな 所取遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
市町村	遺跡番号	°	'	°	'			
なかしまいちこういせき 中島1号遺跡	ひがしひろしまし たかやまちょう 東広島市高屋町 なかしま 中島	34212	981	132° 47' 05"	34° 26' 36"	20131210 ～ 20131227	23	携帯電話無 線無線基地 局新設工事
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物		特記事項
中島1号遺跡	集落跡	弥生時代		土器棺2基 土器蓋土坑1基 石棺3基	壺形土器3点 甕形土器1点			

東広島市教育委員会文化財調査報告書第50集
中島1号遺跡発掘調査報告書

発行日 平成27（2015）年3月27日
編集・発行 東広島市教育委員会
〒739-8601 広島県東広島市西条栄町8番29号
印 刷 大東印刷株式会社
〒723-0052 広島県三原市皆実4丁目5-30